

みなさんは、どんなしつけをしていますか。

教育者であり哲学者である元神戸大学教授の森信三氏(明治二十九年(平成四年)は、しつけの根本は三つあり、これらのことさえ徹底させれば、あとはおのずとできるようになると言いました。

一つ目は、自分から進んであいさつをすることです。二つ目は、名前を呼ばれたら「はい」と返事をすることです。三つ目は、履物を揃えるということです。たったこれだけでよいのだろうかと思う人もいるかもしれませんが、この三つは、子どもだけではなく私たち大人にとっても大切なことです。

自分からあいさつをするということは、人と人のかかわり合いの出発点になります。相手の存在を認め、人を尊重しようとする気持ちにつながります。

名前を呼ばれたら「はい」と返事をするのは、人とかかわりを素直に受け入れることになります。

履物を揃えることは、物事の締めくくりをきちんとすることに結びつきます。

では、これらをどのように子どもたちにしつければよいのでしょうか。わたしたち大人は、言葉で指示をし、できなかつたら叱つてしまいがちです。森氏は、言葉は十のうち二か三くらいがよいと言

っています。言葉でしつけるのではなく、身をもって教えることが大事だと言います。

森氏の著書を読んでいて、私は自分が子どもの頃のある場面を思い出しました。父が、「近所の人にあつたら、その人がたとえ後ろを向いていても、はっきりとあいさつをしなさい」と教えてくれたのです。それからしばらくたったある日、私が父と歩いていると、近所の方が後ろを向いてしゃがんでいました。父は、その人の背中に向かって「こんにちは」とあいさつをしました。すると、近所の方は振り返り、なんと素敵な笑顔で「こんにちは」とあいさつを返してくれたのです。もう数十年前のことですが、鮮明に覚えているのです。今振り返ると、このときから私は自分から進んであいさつができるようになったのです。

あいさつができる子を育てるなら、親や大人が自分から進んであいさつをすることです。名前を呼ばれたら返事をする子を育てるなら、親や大人が名前を呼ばれたら返事をするということです。子どもが履物を揃えられなかつたら親や大人がそつと揃えてあげるので、しつけは、大人が身をもって示し、子どもに伝えていくものではないでしょうか。しつけは、「身」を「美しく」という意味で「躰」と書きます。まずは大人自身が自分の身を美しくするよう努め、子どもに伝えていくことができたなら素敵ですね。

できたなら素敵ですね。

連載・青少年健全育成シリーズ 第276回

「三つのしつけ」



毎月第1日曜日は「家庭の日」
毎月第3日曜日は「青少年を育む日」です。
青少年育成都留市民会議編集委員

青少年への声かけ・あいさつ運動の推進
『大人も子どももすすんであいさつをしよう』

広報「つる」広告募集!

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか? 広報「つる」は、都留市内の各家庭に配布されています(10,500部発行)ので、多くの方の目に触れます!

問合せ: 行政管理課 秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額/枠	備考
裏面	カラー	20,570	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,280	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。掲載状況につきましては、下記をご参考としてください。また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広告掲載欄

広告掲載欄